

検診機関がん検診実施体制

(令和4年度)

富山県厚生部健康対策室健康課(令和5年3月16日現在)

胃がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター	
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター			
受診者への説明	下記項目を記載した資料を受診者個別に配布している場合は「○」、口頭や掲示のみの場合は「×(掲示のみ)」と回答してください。なお、市町村が同資料を配布している場合は「○」としてください。その他の場合は「△(理由を記載)」としてください。								
	要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることを明確に知らせているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	精密検査の方法について説明しているか(胃部X線検査の精検として胃内視鏡検査の実施・概要、胃内視鏡検査の精検として生検・内視鏡再検査の実施・概要 など)	○	○	○	○	○	○	×	×
	精密検査結果は市町村等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有することを説明しているか	○	○	○	○	○	○ (書面にて)	○	○
	検診の有効性(死亡率減少効果)と欠点(偽陽性や偽陰性)について、説明を行っているか	○	○	○	○	○	○	×	×
	検診受診の継続の重要性、症状がある場合は医療機関の受診が重要であることを説明しているか	○	○	○	○	○	○	×	×
	胃がんが、日本のがん死亡の上位に位置することを説明しているか	○	○	○	○	○	○	×	×
問診および胃部X線撮影の精度管理	検診項目は、問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれかとしているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	問診は現在の病状、既往歴、家族歴、過去の検診の受診状況等を聴取しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	問診記録は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○

胃がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
問診および胃腸X線撮影の精度管理	○	○	△ (必要に応じて)	○	○	○	○	○
撮影枚数	任意型12枚 対策型8枚	任意型13枚 対策型9枚	直接12枚 間接8枚	施設12枚 集団8枚	16枚	13枚	直接12枚	直接10枚
撮影枚数は仕様書に明記しているか	○	○	△ (必要に応じて)	○	○	△ (必要に応じて)	○	○
胃腸X線撮影の体位及び方法は日本消化器がん検診学会の方式によるものとしているか注2)	○	○	○	○	○	○	○	○
撮影の体位及び方法を仕様書に明記しているか	△ (必要に応じて)	○	△ (必要に応じて)	○	○	○	○	○
胃腸X線撮影において、造影剤の使用に当たっては、その濃度を適切に(180~220W/V%の高濃度バリウム、120~150mlとする)保つとともに、副作用等の事故に注意しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
撮影技師数 ／うち日本消化器がん検診学会認定の胃がん検診専門技師数	17名 ／5名	14名 ／3名	19名 ／10名	9名 ／2名	14名 ／4名	13名 ／2名	5名 ／1名	7名 ／0名
自治体や医師会等から求められた場合、胃腸X線撮影に携わる技師の全数と日本消化器がん検診学会認定技師数を報告しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
読影医師数 ／うち日本消化器がん検診学会認定の胃がん検診専門医師数	55名 ／2名	12名 ／0名	15名 ／3名	4名 ／0名	6名 ／0名	6名 ／0名	4名 ／1名	3名 ／1名

胃がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター	
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター			
問診および胃部X線撮影の精度管理	自治体や医師会等から求められた場合、読影医全数と日本消化器がん検診学会認定専門医数を報告しているか	○	○	○	○	○	○	○	
	読影は二重読影か ／うち、1人は日本消化器がん検診学会認定医か	○/△ (読影を認定医が実施しない場合もあり)	○/×	○/○	○/×	○/×	○/×	○/○	○/○
	必要に応じて過去に撮影したエックス線写真と比較読影しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	エックス線写真は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	検診結果は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
システムとしての精度管理	受診者への結果の通知・説明、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内になされているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	がん検診の結果及びそれに関わる情報について、市町村や医師会等から求められた項目をすべて報告しているか(情報とは、地域保健・健康増進事業報告に必要な項目である)	○	○	○	○	○	○	○	○
	精密検査方法及び結果について、市町村や医師会から求められた項目の積極的な把握に努めているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	撮影や読影向上のための検討会や委員会(自施設以外の胃がん専門家を交えた会)を設置しているか、もしくは、市町村や医師会が設置した検討会や委員会に参加しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	自施設の検診結果について、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度等のプロセス指標値を把握しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	プロセス指標値やチェックリストの遵守状況に基づいて、自施設の精度管理状況を評価し、改善に向けた検討を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○

胃がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
胃内視鏡検査について	○	○	○	○	○	○	×	×
胃内視鏡検査の機器や医師・技師の条件は、日本消化器学会による胃内視鏡検診マニュアル注3)を参考にし、仕様書に明記しているか	○	○	○	○	○	○	×	—
胃内視鏡画像の読影に当たっては、日本消化器学会による胃内視鏡検診マニュアルを参考に行っているか	○	○	○	○	○	○	×	—
胃内視鏡検診運営委員会(仮称)、もしくはそれに相当する組織が設置する読影委員会により、ダブルチェックを行っているか ※ダブルチェックとは、内視鏡検査医以外の読影委員会のメンバーが内視鏡画像のチェックを行うことである。ただし、専門医が複数勤務する医療機関で検診を行う場合には、施設内での相互チェックをダブルチェックの代替方法とすることができる	○	○	○	○	○	○	×	—
読影委員会のメンバーは、日本消化器がん検診学会認定医、あるいは日本消化器内視鏡学会専門医の資格を所得しているか	○	○	○	○	○	○	—	—
胃内視鏡画像は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○ (R2.3以前の分)	—
胃内視鏡検査による検査結果は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○ (R2.3以前の分)	—

注1) 本チェックリストは「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」一部改正(平成28年2月通達)に基づき国立がん研究センターが作成した項目となります。

注2) 胃部X線撮影法及び撮影機器の基準は、日本消化器がん検診学会発行「新・胃X線撮影法ガイドライン改訂版(2011)」を参照

注3) 日本消化器がん検診学会発行「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル2015年度版」を参照

肺がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター	
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター			
受診者への説明	下記項目を記載した資料を受診者個別に配布している場合は「○」、口頭や掲示のみの場合は「×(掲示のみ)」と回答してください。なお、市町村が同資料を配布している場合は「○」としてください。その他の場合は「△(理由を記載)」としてください。								
要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることを明確に知らせているか	○	○	○	○	○	○	○	○	
精密検査の方法や内容について説明しているか (精密検査はCT検査や気管支鏡検査による実施・概要など)	×	○	○	○	○	○	×	×	
精密検査結果は市町村等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有することを説明しているか	○	○	○	○	○	○	○ (書面に て)	○	
検診の有効性(死亡率減少効果)と欠点(偽陽性や偽陰性)について、説明を行っているか	市町村側で 実施	○	○	○	○	○	○	×	
検診受診の継続の重要性、症状がある場合は医療機関の受診が重要であることを説明しているか	○	○	○	○	○	○	○	×	
肺がんが、日本のがん死亡の上位にいることを説明しているか	市町村側で 実施	○	○	○	○	○	○	×	
禁煙及び防煙指導等、肺がんに関する正しい知識の啓発普及を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○	
問診および撮影の精度管理	△ 一部 (受診者の判断)	△ (一部対応)	△(地域のみ)	×	○	希望者のみ	△ (地域のみ)	×	
	<p>検診項目は、問診(質問)、胸部エックス線検査、および質問の結果、50歳以上で喫煙指数(1日本数×年数)が600以上だった者(過去における喫煙者含む)への喀痰細胞診としているか</p> <p>※質問は必ずしも対面による聴取で実施する必要はなく、受診者に自記式の質問用紙を持って代えることができる。また、加熱式タバコについては、「カートリッジの本数」を「喫煙本数」と読み替える</p>								

肺がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目		富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
						高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
問診および撮影の精度管理	問診(質問)は喫煙歴、妊娠の可能性の有無を必ず聴取し、かつ、過去の受診状況等を聴取しているか。また、最近6ヶ月に血痰など自覚症状がある場合は、精密検査を行うよう勧めているか	○	○	○	○	○	○	○	△ (一部対応)
	問診(質問)記録は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	肺がん診断に適格な胸部エックス線撮影、すなわち、放射線科医、呼吸器内科医、呼吸外科医のいずれかによる胸部X線の画質と評価と、それに基づく指導を行っているか 注1)	○	○	○	○	○	○	○	○
撮影機器 (間接撮影)	ミラーカメラ(mm)	—	—	—	—	—	—	—	—
	定格出力(KV以上)	—	—	—	—	—	—	—	—
	管電圧(KV以上)	—	—	—	—	—	—	—	—
	希土類蛍光板	—	—	—	—	—	—	—	—
撮影機器 (直接撮影)	定格出力(KV以上)	150KV以上	150KV以上	150KV以上	150KV以上	150KV以上	150KV以上	150KV以上	150KV以上
	管電圧(KV以上)	125KV以上	125KV以上	125KV以上	120KV以上	120KV以上	120KV以上	120KV以上	130KV以上
	希土類システム	FPD	FPD	デジタル	FPD	FPD	デジタル	デジタル	デジタル
フィルムサイズ		デジタル	デジタル	デジタル	デジタル	デジタル	デジタル	デジタル	デジタル
撮影機器の種類、フィルムサイズ、モニタ読影の有無を仕様書等に明記し、日本肺癌学会が定める、肺がん検診として適切な撮影機器・撮影方法で撮影しているか 注2)		○	○	△ (必要に応じて)	○	○	○	○	○
胸部エックス線検査に係る必要な機器及び設備を整備するとともに、機器の日常点検等の管理体制を整備しているか		○	○	○	○	○	○	○	○

肺がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目		富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
						高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
問診および撮影の精度管理	1日あたりの実施可能人数	300人	300人	300人	200人	施設検診 40人 巡回検診 70人	40人	300人	300人
	集団検診について、1日あたりの実施可能人数を仕様書等に明記しているか	○	○	△(必要に応じて)	○	○	—	×	×
	集団検診において、事前に胸部エックス線撮影を行う診療放射線技師に対して指示をする責任医師、及び緊急時や必要時に対応する医師などを明示した計画書を作成し、市町村に提出しているか (医師立会いの下での撮影・医師撮影の場合は不要)	○	○	○	○	○	—	○	○
	緊急時や必要時に医師に連絡できる体制を整備しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	胸部エックス線撮影時や緊急時のマニュアルを整備しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	診療放射線技師が必要な教育・研修を受ける機会を確保しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
X線読影の精度管理	読影医師数 ／うち十分な経験を要した呼吸器科または放射線科の専門医	23名 ／22名	20名 ／20名	15名 ／15名	6名 ／1名	5名 ／3名	7名 ／1名	11名 ／7名	3名 ／3名
	診療放射線技師数	15名	14名	28名	9名	20名	13名	5名	7名

肺がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
X線読影の精度管理 自治体や医師会から求められた場合、読影医の実態（読影医の氏名、生年、所属機関名、専門とする診療科目・呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科医師の場合には専門科医師としての経験年数、肺がん検診に従事した年数、「肺がん検診に関する症例検討会や読影講習会 注3）」の受講の有無等）を報告しているか	○	○	○	○	○	○	△ (必要に応じて)	○
読影は二重読影を行い、読影に従事する医師は下記の要件（※）を満たしているか ※読影医の要件 ・第一読影医：検診機関などで開催される「肺がん検診に関する症例検討会や読影講習会 注3）」に年1回以上参加していること ・第二読影医：下記の1)、2)いずれかを満たすこと 1)3年間以上の肺がん検診読影経験があり、かつ検診機関などで開催される「肺がん検診に関する症例検討会や読影講習会 注3）」に年1回以上参加している 2)5年間以上の呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線科医のいずれかとしての経験があり、かつ検診機関などで開催される「肺がん検診に関する症例検討会や読影講習会 注3）」に年1回以上参加している	○	○	○	○	○	○	×	×
2名の読影医のうち、どちらかが「要比較読影」としたものは、過去に撮影した胸部エックス線写真と比較しているか	○	○	○	○	○	○	○	○

肺がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター	
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター			
X線読影の精度管理	比較読影の方法は、①読影委員会等を設置して読影する(あるいは委員会等に委託)、②二重読影を行った医師がそれぞれ読影する、③二重読影を行った医師のうち指導的立場の医師が読影するのいずれかにより行っているか	○	○	○	○	○	○	○	
	シャウカステン・読影用モニタなどの機器に関しては、日本肺癌学会が定めた基準等に従っているか	○	○	○	○	○	○	○	
	読影結果の判定は「肺がん検診の手引き」(日本肺癌学会肺がん検診委員会編)の「肺がん検診における胸部X線写真の判定基準と指導区分」によって行っているか	○	○	○	○	○	○	○	
	X線画像は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	
	X線検査結果は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	
喀痰細胞診の精度管理	細胞診の業務を委託する場合は、その委託機関(施設名)を仕様書等に明記しているか	委託なし	委託なし	△ (必要に応じて)	委託なし	委託なし	委託なし	△ (必要に応じて)	△ (必要に応じて)
	採取した喀痰は、2枚以上のスライドに塗抹し、湿固定の上、パパニコロウ染色を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	固定標本の顕微鏡検査は、公益社団法人日本臨床細胞学会の認定を受けた細胞診専門医と細胞検査士が連携して行っているか(注4)	○	○	○	○	○	○	○	○
	同一検体から作成された2枚以上のスライドは、2名以上の技師によりスクリーニングしているか	○	○	△ (一部対応)	○	○	○	外部委託	外部委託

肺がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目		富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
						高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
喀痰細胞診の精度管理	がん発見例は、過去の細胞所見の見直しを行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	標本は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	喀痰細胞診検査結果は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
システムとしての精度管理	受診者への結果の通知・説明、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内になされているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	がん検診の結果及びそれに関わる情報について、市町村や医師会等から求められた項目をすべて報告しているか(情報とは、地域保健・健康増進事業報告に必要な項目である)	○	○	○	○	○	○	○	○
	精密検査方法及び結果について、市町村や医師会から求められた項目の積極的な把握に努めているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	検診に従事する医師の胸部画像読影力の向上のために「肺がん検診に関する症例検討会や読影講習会 3)」を年1回以上開催しているか。もしくは、他施設や都道府県単位、あるいは日本肺癌学会等が主催する胸部画像の読影に関するセミナー・講習会を年に1回以上受講させているか	×	×	×	○	×	×	×	×
	内部精度管理として、検診実施体制や検診結果の把握・集計・分析のための委員会(自施設以外の専門家(※)を交えた会)を年1回以上開催しているか。もしくは、市区町村や医師会等が設置した同様の委員会に年に1回以上参加しているか	○	○	×	×	×	×	×	×
※当該検診機関に雇用されていないがん検診の専門家や肺がん診療の専門家など									

肺がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目		富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
						高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
システムとしての精度管理	自施設の検診結果について、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度等のプロセス指標値を把握しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	プロセス指標値やチェックリストの遵守状況に基づいて、自施設の精度管理状況を評価し、改善に向けた検討を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○

注1) 肺がん診断に適格な胸部エックス線撮影：日本肺癌学会編集、肺癌取り扱い規約 改訂第8版（検診の手引き2020年改訂版）より背腹一方向撮影を原則とする。適格な胸部エックス線写真とは、肺尖、肺野外側縁、横隔膜、肋骨横隔膜角などを含むように正しく位置づけられ、適度な濃度とコントラストおよび良好な鮮鋭度をもち、中心陰影に重なった気管、主気管支の透亮像ならびに心陰影及び横隔膜に重なった肺血管が観察できるもの

注2) 日本肺癌学会編集、肺癌取り扱い規約 改訂第8版（検診の手引き2020年改訂版）より

1：間接撮影の場合は、100mm ミラーカメラと、定格出力150kV 以上の撮影装置を用いて120kV 以上の管電圧により撮影する。やむを得ず定格出力125kV の撮影装置を用いる場合は、110kV 以上の管電圧による撮影を行い縦隔部の感度を肺野部に対して高めるため、希土類（グラデーション型）蛍光板を用いる。定格出力125kV 未満の撮影装置は用いない

2：直接撮影（スクリーン・フィルム系）の場合は、被検者—管球間距離を150cm以上とし、定格出力150kV 以上の撮影装置を用い、120kV 以上の管電圧及び希土類システム（希土類増感紙+オルソタイプフィルム）による撮影がよい。やむを得ず100～120kV の管電圧で撮影する場合も、被曝軽減のために希土類システム（希土類増感紙+オルソタイプフィルム）を用いる

3：直接撮影（デジタル画像）の場合は、X線検出器として、輝尽性蛍光体を塗布したイメージングプレート（IP）を用いたCRシステム、平面検出器（FPD）もしくは固体半導体（CCD、CMOSなど）を用いたDRシステムのいずれかを使用する。管球検出器間距離（撮影距離）150cm以上、X線管電圧120～140kV、撮影mAs値4mAs程度以下、入射表面線量0.3mGy以下、グリッド比8：1以上、の条件下で撮影されることが望ましい

4：撮影機器、画像処理、読影用モニタの条件については、日本肺癌学会ホームページ、肺がん検診委員会からのお知らせに掲載された最新情報を参照すること

注3) 下記講習会の具体的内容は、日本肺癌学会ホームページ(肺がん検診について)を参照すること
 「肺癌取り扱い規約 第8版 肺がん検診の手引きについて改定について」、「肺癌取り扱い規約第8版「肺がん検診の手引き」改定に関するQ&A」
 ・「肺がん検診に関する症例検討会や読影講習会」
 ・他施設や都道府県単位、あるいは日本肺癌学会等が主催する胸部読影に関するセミナー・講習会

注4) 喀痰の処理法・染色法：公益社団法人 日本臨床細胞診学会、細胞検査士会編集「細胞診標本作製マニュアル」参照
 細胞診判定：肺癌取り扱い規約、日本肺癌学会ホームページ(肺がん検診について)「肺癌検診における喀痰細胞診の判定区分別標準的細胞」参照

大腸がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター	
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター			
受診者への説明	下記項目を記載した資料を受診者個別に配布している場合は「○」、口頭や掲示のみの場合は「×(掲示のみ)」と回答してください。なお、市町村が同資料を配布している場合は「○」としてください。その他の場合は「△(理由を記載)」としてください。								
	便潜血陽性で要精密検査となった場合には、必ず精検を受ける必要があることを(便潜血検査の再検は不適切であることを)を説明しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	精密検査の方法や内容について説明しているか(検査の概要や、精検の第一は内視鏡検査であること)	○	○	○	○	○	○	×	×
	精密検査結果は市町村等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有することを説明しているか	○	○	○	○	○	○ (書面にて)	○	○
	検診の有効性(死亡率減少効果)と欠点(偽陽性や偽陰性)について、説明を行っているか	市町村側で実施	○	○	○	○	○	×	×
	検診受診の継続の重要性、症状がある場合は医療機関の受診が重要であることを説明しているか	○	○	○	○	○	○	×	×
	大腸がんが、日本のがん死亡の上位にいることを説明しているか	×	○	○	○	○	○	×	×
検査の精度管理	検査は、免疫便潜血検査2日法を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	便潜血検査キットのキット名、測定方法、カットオフ値(定性法の場合は検出感度)を仕様書等にすべて明記しているか	×	○	△(必要に応じて)	○	○	○	○	×
	大腸がん検診マニュアル(2013年日本消化器がん検診学会刊行)に記載された方法に準拠して行なっているか	○	○	○	○	○	○	○	○

大腸がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目		富山県健康増進センター	富山市医師会 健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡 ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部 北陸支部	友愛健康医学センター
						高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
検体の取り扱い	採便方法についてチラシやリーフレット(キットの説明書など)を用いて受診者に説明しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	採便後即日(2日目)回収を原則としているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	採便後は検体を冷蔵庫あるいは冷所に保存するよう受診者に指導しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	受診者から検体を回収してから自施設で検査を行うまでの間あるいは検査施設へ引き渡すまでの間、冷蔵保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	検査施設では検体を受領後冷蔵保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	検体回収後原則として24時間以内に測定しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	検診結果は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
システムとしての精度管理	受診者への通知のための市町村への結果報告は、検体回収後2週間以内になされているか	○	△地域検診を実施していない	○	○	×	△	○	○
	がん検診の結果及びそれに関わる情報について、市町村や医師会等から求められた項目をすべて報告しているか(情報とは、地域保健・健康増進事業報告に必要な項目である)	○	○	○	○	○	○	○	○
	精密検査方法及び結果について、市町村や医師会から求められた項目の積極的な把握に努めているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	自施設の検診結果について、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度等のプロセス指標値を把握しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	プロセス指標値やチェックリストの遵守状況に基づいて、自施設の精度管理状況を評価し、改善に向けた検討を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○

子宮がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター	
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター			
受診者への説明	下記項目を記載した資料を受診者個別に配布している場合は「○」、口頭や掲示のみの場合は「×(掲示のみ)」と回答してください。なお、市町村が同資料を配布している場合は「○」としてください。その他の場合は「△(理由を記載)」としてください。								
	検査結果は「精検不要」「要精密検査」のいずれかの区分で報告されることを説明し、要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることを明確に知らせているか	○	○	○	○	○	○	×	○
	精密検査の方法や内容について説明しているか(精密検査はコルポスコープ下の組織診や細胞診、HPV検査などを組み合わせた実施・その概要など)	○	○	○	○	○	○	×	×
	精密検査結果は市町村等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有することを説明しているか	○	○	○	○	○	○ (書面にて)	○	○
	検診の有効性(死亡率減少効果)と欠点(偽陽性や偽陰性)について、説明を行っているか	○	○	○	○	○	○	×	×
	検診受診の継続の重要性、症状がある場合は医療機関の受診が重要であることを説明しているか	○	○	○	○	○	○	×	×
	子宮頸がんは日本での女性のがんの中で比較的多く、また、近年増加傾向にあることなどを説明しているか	○	○	○	○	○	○	×	×
問診・視診の精度管理	検診項目は、医師による子宮頸部の検体採取による細胞診のほか、問診、視診を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	細胞診の方法(従来法/液状検体法、採取器具)を仕様書等に明記しているか	○	○	△(必要に応じて)	○	○	○	○	×

子宮がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調 査 項 目		富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
						高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
問診・視診の精度管理	細胞診は、直視下に子宮頸部及び膣部表面の全面擦過により細胞を採取し(注1)、迅速に処理※しているか ※採取した細胞は直ちにスライドグラスに塗抹して速やかに固定すること。または、直ちに液状化検体細胞診用の保存液ボトル内に攪拌懸濁し固定すること。	○	○	○	○	○	○	○	○
	細胞診の業務を委託する場合は、その委託機関(施設名)を仕様書等に明記しているか	委託なし	委託なし	必要に応じて	委託なし	委託なし	委託なし	必要に応じて	必要に応じて
	検体が不適正との判定を受けた場合は、当該検診機関で再度検体採取をおこなっているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	検体が不適正との判定を受けた場合は、当該検診機関で原因等を検討し対策を構っているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	検診結果は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	問診は、妊娠及び分娩歴、月経の状況、不正性器出血等の症状の有無、過去の検診受診状況等を聴取しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	問診の上、症状(体がんの症状を含む)のある者には、適切な医療機関への受診勧奨を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	問診記録は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	視診は膣鏡を挿入し、子宮頸部の状況を観察しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
細胞診の精度管理	細胞診判定施設は、公益社団法人日本臨床細胞学会の施設認定を受けているか。もしくは、同学会の認定を受けた細胞診専門医と細胞検査士が連携して検査を行っているか(注2)	○	○	○	○	○	○	○	○

子宮がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目		富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
						高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
細胞診の精度管理	細胞診陰性と判断された検体は、その10%以上について、再スクリーニングを行い注2)、再スクリーニング施行率を報告しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	細胞診結果の報告には、ベセスダシステム注3)を用いているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	全ての子宮頸がん検診標本の状態について、ベセスダシステムの基準に基づいて適正・不適正のいずれかに分類し、細胞診結果に明記しているか(一部でも実施しない場合は不適切)	○	○	○	○	○	○	○	○
	がん発見例は、過去の細胞所見の見直しを行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	標本は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
システムとしての精度管理	受診者への通知のための市町村への結果報告は、受診後4週間以内になされているか	○	△地域検診を実施していない	○	○	○	○	○	○
	がん検診の結果及びそれに関わる情報について、市町村や医師会等から求められた項目をすべて報告しているか(情報とは、地域保健・健康増進事業報告に必要な項目である)	○	○	○	○	○	○	○	○
	精密検査方法及び結果について、市町村や医師会から求められた項目の積極的な把握に努めているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	撮影や読影向上のための検討会や委員会(自施設以外の子宮頸がん専門家を交えた会)を設置しているか、もしくは、市町村や医師会が設置した検討会や委員会に参加しているか	○	○	×	×	×	×	×	—

子宮がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調 査 項 目		富山県健康 増進センター	富山市医師 会健康管理セ ンター	北陸予防 医学協会	JCHO高岡 ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康 倶楽部 北陸支部	友愛健康 医学センター
						高岡健康 管理センター	滑川健康 管理センター		
システ ムとし ての精 度管理	自施設の検診結果について、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度等のプロセス指標値を把握しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	プロセス指標値やチェックリストの遵守状況に基づいて、自施設の精度管理状況を評価し、改善に向けた検討を行っているか	○	○	○	○	○	○	—	—

注1) 一般社団法人 日本婦人科がん検診学会 子宮頸部細胞採取の手引き参照

注2) 日本臨床細胞学会 細胞診精度管理ガイドライン参照

注3) ベセスダシステム による分類：The Bethesda System for Reporting Cervical Cytology second edition およびベセスダシステム2001 アトラス 参照

乳がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター	
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター			
受診者への説明	下記項目を記載した資料を受診者個別に配布している場合は「○」、口頭や掲示のみの場合は「×(掲示のみ)」と回答してください。なお、市町村が同資料を配布している場合は「○」としてください。その他の場合は「△(理由を記載)」としてください。								
要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があることを明確に知らせているか	○	○	○	○	○	○	○	○	
精密検査の方法や内容について説明しているか(精密検査はマンモの追加撮影や超音波検査等により実施・概要など)	○	○	○	○	○	○	×	×	
精密検査結果は市町村等へ報告すること、また他の医療機関に精密検査を依頼した場合は、検診機関がその結果を共有することを説明しているか	○	○	○	○	○	○ (書面にて)	○	○	
検診の有効性(死亡率減少効果)と欠点(偽陽性や偽陰性)について、説明を行っているか	○	○	○	○	○	○	×	×	
検診受診の継続(隔年)、 <u>ブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)</u> 、症状がある場合は <u>速やかに医療機関を受診することの重要性について</u> 説明しているか	○	○	○	○	○	○	×	×	
乳がんが、日本のがん死亡の上位にいることを説明しているか	○	○	○	○	○	○	×	×	
問診および撮影の精度管理	検診項目は、 <u>質問(医師が自ら行う場合は問診)</u> 及びマンモグラフィ検査としているか(追加で視触診している場合も「○」)								
<u>質問(問診)</u> 記録は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○	マンモグラフィは外部委託		
<u>質問(問診)</u> では現在の症状、月経及び妊娠等に関する事項を必ず聴取し、かつ既往歴、家族歴、過去の <u>検診</u> の受診状況等を聴取しているか	○	○	○	○	○	○			

乳がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目	富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
					高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
問診および撮影の精度管理								
乳房エックス線撮影装置の種類を仕様書等に明記し、日本医学放射線学会の定める仕様基準(注1)を満たしているか	○	○	△ (必要に応じて)	○	○	○		
<u>マンモグラフィに係る必要な機器及び設備を整備するとともに、機器の日常点検等の管理体制を整備しているか</u>	○	○	○	○	○	○		
両側乳房について内外斜位方向撮影をおこなっているか。また、40～49歳の受診者に対しては、内外斜位方向・頭尾方向の2方向を撮影しているか	○	○	○	○	△ (一部)	○		
乳房エックス線撮影における線量および写真 <u>またはモニタ</u> の画質について、日本乳がん検診精度管理中央機構(旧マンモグラフィ検診精度管理中央委員会)の行う施設画像評価を受け、AまたはBの評価をうけているか	○	○	○	○	○	○		
撮影を行う <u>診療放射線技師</u> 、医師は、乳房エックス線撮影、読影及び精度管理に関する基本学習プログラムに準じた講習会(注2)を修了し、その評価試験でAまたはBの評価をうけているか	○	○	○	○	○	○		
<u>事前に乳房エックス線撮影を行う診療放射線技師に対して指示をする責任医師及び緊急時や必要時に対応する医師などを明示した計画書を作成し、市区町村に提出しているか</u>	○		×		×	×		
<u>緊急時や必要時に医師に連絡できる体制を整備しているか</u>	○	○	○	○	○	○		
<u>乳房エックス線写真撮影時や緊急時のマニュアルを整備しているか</u>	○	○	○	○	○	△ (病院のマニュアルに準ずる)		
<u>検診に従事する診療放射線技師が必要な教育・研修を受ける機会を確保しているか</u>	○	○	○	○	○	○		
<u>診療放射線技師数</u> ／うち精中機構の認定技師数	10名 ／9名	8名 ／3名	10名 ／5名	2名 ／1名	8名 ／8名	4名 ／4名		

乳がん検診実施体制(令和4年度)

※昨年度からの変更点は網掛け

調査項目		富山県健康増進センター	富山市医師会健康管理センター	北陸予防医学協会	JCHO高岡ふしき病院	富山県厚生農業協同組合連合会		日本健康倶楽部北陸支部	友愛健康医学センター
						高岡健康管理センター	滑川健康管理センター		
読影の精度管理	読影医師数 ／うち精中機構の認定医師数	30名 ／30名	3名 ／3名	5名 ／5名	2名 ／2名	2名 ／2名	4名 ／2名		
	読影は二重読影を行い、読影に従事する医師のうち少なくとも一人は、乳房エックス線写真撮影に関する適切な講習会(注2)を修了し、その評価試験でAまたはBを受けているか	○	○	○	○	○	○		
	乳房エックス線画像は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○		
	検診結果は少なくとも5年間は保存しているか	○	○	○	○	○	○		
システムとしての精度管理	受診者への通知のための市町村への結果報告は、受診後4週間以内になされているか	○	△地域検診を実施していない	○	○	○	○		○
	がん検診の結果及びそれに関わる情報について、市町村や医師会等から求められた項目をすべて報告しているか(情報とは、地域保健・健康増進事業報告に必要な項目である)	○	○	○	○	○	○		○
	精密検査方法及び結果について、市町村や医師会から求められた項目の積極的な把握に努めているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	撮影や読影向上のための検討会や委員会(自施設以外の乳がん専門家を交えた会)を設置しているか、もしくは、市町村や医師会が設置した検討会や委員会に参加しているか	○	○	○	○	×	○		
	自施設の検診結果について、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度等のプロセス指標値を把握しているか	○	○	○	○	○	○	○	○
	プロセス指標値やチェックリストの遵守状況に基づいて、自施設の精度管理状況を評価し、改善に向けた検討を行っているか	○	○	○	○	○	○	○	○

注1) 乳がん検診に用いるエックス線装置の仕様基準：マンモグラフィによる乳がん検診の手引き第7版ーマンモグラフィガイドライン第4増補版参照

注2) 基本講習プログラムに準じた講習会とは、検診関連6学会(日本乳癌検診学会、日本乳癌学会、日本医学放射線学会、日本産科婦人科学会、日本放射線技術学会、日本医学物理学会)から構成されるマンモグラフィ検診精度管理中央委員会の教育・研修委員会の行う講習会等をいう。なお、これまで実施された「マンモグラフィ検診の実施と精度向上に関する調査研究」班、「マンモグラフィによる乳がん検診の推進と精度向上に関する調査研究」班および日本放射線技術学会乳房撮影ガイドライン・精度管理普及班による講習会等を含む